

松江市における

衛生思想
の歴史と今

1



A.ローツ

2



田野俊貞

3



後藤新平

4



W.K.バルトン

期間 2024年10月1日(火)～11月3日(日) ※休館10/12-14

会場 島根大学附属図書館展示室(1階)・多目的室(3階)

衛生から始まる近代国家へのスタート

伝染病・上下水道整備・健康増進・人々の幸福

幕末から、松江ではコレラなど伝染病が流行しました。ドイツ医学を学んだ田野俊貞らは、衛生思想の普及に目覚め、上水道敷設を建議するなど、尽力しました。バルトンによる忌部サミズ水源の提案(1895年調査・1899年復命書)の20年後、諸課題を乗り越え、1918年になって松江市の上水道が通水を開始しました。感染症の時代の今日、4人の業績を知って、松江市の衛生環境・衛生思想と水道の歴史を学び、環境の世紀のための創造への糧とする目的で展示会を開催します。

主催 松江バルトン会 共催 島根大学附属図書館

後援 日本水循環文化研究協会、臺北自來水事業處、松江市上下水道局・文化財課、
松江市医師会、島根県建築士会、松江東ロータリークラブ、城西公民館、
福島造船鉄工所、今岡ギャラリー、城見エステート

お問い合わせ MatsueBurton1895@gmail.com

力田新平
彩平

好生の徳は民心に治し

衛生思想の原点：「好生の徳は民心に治し」後藤新平筆（1880頃）（嵯峨見エステート所蔵）
（人の生命を大切にする徳を万人にゆきわたらせる）

衛生思想の普及・実現に貢献した4人の先人たち

1



A.ローレツ（1846-1884）演生思想の演・ドイツ演演を演授

オーストリア出身、1874年来日。1876年より、愛知県公立医学校（名古屋大学医学部）の教官として、田野俊貞、後藤新平らにドイツ医学・衛生学を教授した。その後、石川県金沢医学校（金沢大学医学部）、山形県済生館医学寮などを経て、1882年帰国した。2年後の1884年、37歳の若さで没した。

2



田野俊貞（1855-1910）衛生思想の先駆者・医師

栃木県出身。大学東校（東京大学医学部）に入学しドイツ医学を学ぶ。1878年、愛知県公立医学校教官となり、後藤新平と出会う。ローレツから臨床医学・衛生学・法医学を学び、講義を口訳した『皮膚病論一斑』（1880）、『断訟医学』（1886）を刊行し、先駆的な業績を残す。1884年より島根県で勤務し、医学校教諭、松江病院長等を歴任する。大日本私立衛生会に結集し、衛生思想の普及に貢献した。

3



後藤新平（1857-1929）衛生国家の推進者・官僚・政治家

岩手県出身。1876年以降、愛知県公立病院医師・医学校教官となる。ローレツから外科・臨床医学を学ぶ。衛生警察（法医学）に関心をもつ。内務省衛生局長、台湾総督府民政長官、東京市長として衛生行政に敏腕をふるった。田野とは愛知時代から終生の友として親交した。来松の際には必ず田野を訪ねている。

4



W.K.バルトン（1856-1899）松江水道の恩人・衛生工学技師

英国出身。帝国大学工科大学衛生工学教授、内務省衛生工学技師。全国29都市の水道設計に関わる。1895年、国内最後の調査地・松江を訪れ、水源は忌部サミズが最適と報告する。翌96年、後藤新平の要請で台湾に渡り、台北、基隆の水道設計に従事した。初の高層建築・浅草十二階の設計者。写真家で濃尾地震写真集等がある。

ギャラリートーク

10月 1日(火) 10:30～11:00 梶谷光弘

10月20日(日) 10:30～11:00 岡崎秀紀

講演・講話（衛生思想・松江水道・臺北水道・近代化遺産）

10月 1日(火) 14:00～15:30 梶谷光弘・杉谷雄二

10月18日(金) 15:00～15:50 稲場紀久雄・稲場日出子

10月20日(日) 14:00～15:30 岡崎秀紀・足立正智

松江バルトン会

バルトンの顕彰と研究を目的に2016年結成（会員8名）

2022年より資料集3冊刊行、2023年臺北水道施設を視察

会場アクセス

松江市営バス、
一畑バス利用
島根大学前下車
徒歩5分。